Osaka University Knowledge Archive

Title	臨床哲学　第18号　臨床哲学研究会の記録
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 2016, 18, p. 206-212
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60611
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

臨床哲学研究会の記録

≪研究会≫

第 1 回 (1995.10.25)
　鷲田清一 (大阪大学教授・倫理学)：《苦しむ者》(homo patiens) としての人間

第 2 回 (1995.11.30)
　中岡成文 (大阪大学教授・倫理学)：臨床哲学はどのようなフィールドで 働けるか
　入江幸男 (大阪大学助教授・哲学)：ボランティア・ネットワークと 新しい〈人権〉概念の可能性

第 3 回 (1996.4.25)
　フリー・ディスカッション

第 4 回 (1996.5.17)
　川本隆史 (跡見学園女子大学教授・倫理学)：関東大震災と日本の倫理学 四つの症例研究

第 5 回 (1996.5.30)
　池川清子 (北海道医療大学教授・看護学)：看護　生きられる世界からの挑戦

第 6 回 (1996.6.20)
　堀一人 (大阪府立刀根山高校教諭)：「おかわりクラブ」の実験から職業選択から自己実現への道筋

第 7 回 (1996.9.26)
　鷲田清一・中岡成文 : 哲学臨床の可能性

第 8 回 (1996.10.17)
　小松和彦 (大阪大学教授・文化人類学):「癒し」の民俗学的研究

第 9 回 (1997.1.23)
　荒木浩 (大阪大学助教授・国文学):「心」の分節　中世日本文学における〈書くこと〉と〈癒し〉

第 10 回 (1997.7.3)
　鷲田清一 : 臨床哲学事始め
　山口修 (大阪大学教授・音楽学): 音と身

第 11 回 (1997.9.25)「看護の現場から」
　伊藤悠子 (芦原病院看護婦):
　　Feverphobia の克服に向けて —Nightingale 看護論に依拠した小児科外来における実践から
　西川勝 (PL 病院看護士): 臨床看護の現場から

第 12 回 (1997.11.27)
　小林 愛 (奈良市社会福祉協議会・音楽療法推進室): 音楽療法をめぐって

第 13 回 (1998.7.2)
パネルディスカッション「学校を考える :『不登校』という現象を通して」
提題者 : 栗田隆子 (臨床哲学・博士前期課程)：不登校を語ること —— 不登校の「私」性
寺田俊郎 (臨床哲学・博士前期課程)：誰が「なぜ学校に来るのか？」に答えられるか
畑英里　(臨床哲学・研究生)：「学校」という踏み絵

第 14 回 (1998.9.24)
山田 潤 (大阪府立今宮工業高校定時制教諭):
子どもの現在 学校の現在 —増え続ける不登校の問いかけるもの

第 15 回 (1998.12.12)
パネルディスカッション「学校の現在と不在　哲学の現場から〈不登校〉現象を考える」
提題者 : 栗田隆子 (臨床哲学・博士前期課程)
寺田俊郎 (臨床哲学・博士前期課程)
畑英里 (臨床哲学・研究生)

第 16 回 (1999.4.17)
浜田寿美男 (花園大学教授・発達心理学): 生きるかたちを伝える場としての学校

第 17 回 (2000.2.19)「哲学教育の可能性と不可能性 高校の授業から」
堀一人 (刀根山高校教員)
大塚賢司 (同志社高校教員)

第 18 回 (2000.7.1)
中島義道 (電気通信大学教授): 哲学の教育　対話のある社会へ

第 19 回 (2001.7.14)
西村ユミ (日本赤十字看護大学): 臨床のいとなみへのまなざし
武田保江 (臨床哲学・博士課程修了):「死体と出会いした」エピソードもをもとに

第 20 回 (2009.12.9)「教材から哲学と教育を考える」
本間直樹 (大阪大学 / 臨床哲学)：きく、はなす、かんがえる : 西宮市香櫨園小学校の子どもたちとともに
武田朋士 (播磨学園)：少年院における対話ワークショップの試み
菊地建至 (関西大学非常勤講師)：大学の哲学・倫理学の「教材」の多様さと共通性 :「教職」科目を中心に

第 21 回 (2010.2.20) 第 3 回哲学教育合同研究会「教育」
山田圭一 (中央学院大学非常勤講師)、土屋陽介 (日本大学)、村瀬智之 (千葉大学)：
きく、はなす、かんがえる : 西宮市香櫨園小学校の子どもたちとともに
豊田光世 (東京工業大学)：「こどもの哲学と環境倫理教育」

第 22 回 (2010.7.24)「ネオ・ソクラティク・ダイローグの起源と実践」
寺田俊郎 (上智大学)：NSD の起源—ソクラテスでもネルゾンでもなく」
堀江剛 (広島大学)：NSD の『現場反省的』活用を考える : 国際共同研究プロジェクト「遺伝対話」の経験から
會澤久仁子 (熊本大学)：NSD による医療の原則と価値の相互理解
本間直樹 (大阪大学)：対話進行役養成における NSD の効能

第 23 回 (2010.7.24)「マイナスからの哲学・倫理学教育」
菊地建至 (関西大学ほか非常勤講師)：
「日常を哲学すること」をはじめる・つづけるきっかけになる映像活用授業——実演を中心に
田村公江 (龍谷大学)：大学生への学習の支援のあり方とその困難—専任教員としての経験から

第 24 回 (2011.4.9)「『ドキュメント臨床哲学』合評会 臨床哲学のこれまでとこれから」
評者 : 奥田太郎 (南山大学 准教授)
菊地建至 (関西大学 非常勤講師)
三浦隆宏 (摂南大学 非常勤講師)
森本誠一 (大阪大学大学院文学研究科 院生)
司会 : 浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)
個人発表 :
大北全俊 (大阪大学大学院文学研究科 助教)：HIV 感染症をめぐる臨床哲学的考察

第 25 回 (2011.7.9) シンポジウム「高校での臨床哲学の試み —過去・現在・未来—」
會澤久仁子 (熊本大学 COE リサーチ・アソシエイト)
紀平知樹 (兵庫医療大学 准教授)
藤本啓子 (須磨友が丘高校 非常勤講師)
中川雅道 / 洛星高校プロジェクト
報告 : 樫本直樹 (大阪大学 非常勤職員)
司会 : 本間直樹 (大阪大学 准教授)
個人発表
中西チヨキ (大阪大学 博士課程後期): 病と看護と語ること聴くこと

第 26 回 (2011.10.22)
辻明典 (大阪大学大学院文学研究科 院生)・本間直樹 (大阪大学大学院文学研究科 准教授)：
南相馬と臨床哲学
東暁雄 (大阪大学大学院文学研究科 院生)：手続的正義と規範としての法
森本誠一 (大阪大学大学院文学研究科 院生)：
市民参加型社会へ向けた公衆関与のあり方について——英国ビーコンズ・プロジェクトの取り組みを手がかりに

第 27 回 (2012.1.14)：シンポジウム「高齢社会におけるケアを考える」
浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)
藤本啓子 (患者のウェル・リビングを考える会 代表)
林道也 (〈ケア〉を考える会代表)

第 28 回 (2012.4.8)
正置友子 (大阪大学大学院文学研究科博士課程後期)：子どもたちと絵本の扉をひらく
栗田隆子 (ライター)：怒りと呪いの共同体―女の貧困を考える
西川勝 (大阪大学 CSCD 特任教授)：貝原益軒『養生訓』から考える

第 29 回 (2012.7.8)：合評会 : 中岡成文『試練と成熟ー自己変容の哲学ー』(大阪大学出版会、2012)
評者：村上靖彦 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)
田中俊英 (NPO 法人淡路プラッツ代表)
文元基宝 (大阪大学大学院文学研究科 博士課程前期)
個人発表
紀平知樹 (兵庫医療大学共通教育センター准教授)：待機する社会としての定常型社会

第 30 回（2012.10.21）
個人発表
徐静文 (大阪大学 博士後期課程)：中国におけるターミナルケアの歴史と現在
シンポジウム
山崎竜二 ((株) 国際電気通信基礎技術 研究所研究員)：
遠隔操作型ロボットを介したコミュニケーションの可能性――石川県宮竹小学校の授業を通して考える」

第 31 回（2013.1.20）
個人発表
川崎唯史 (大阪大学 博士前期課程)：安全から安心へ――創造的な対話に向かって
中西チヨキ (大阪大学 博士後期課程)：苦しみと感謝のなかで――病いの子どもを介護する母の言葉から

第 32 回（2013.6.16）
個人発表
金和永 (大阪大学 博士前期課程)：「アイデンティティ」と、悼みの分配
辻村修一 (早稲田摂陵教員)：
哲学的な思考を養成する「総合的な学習」の実践に向けて――文科省が規定するキャリア概念に対する懐疑を前提に

第 33 回（2013.12.7）
共同発表
稲原美苗 (大阪大学大学院文学研究科 助教)
文元基宝 (文元歯科医院 院長)：

歯科医療の中の当事者研究―専門知と当事者の知をつないで―
辻明典 (福島県南相馬市立原町第二中学校 社会科教員)：葛藤について

第 34 回研究会（2014.3.23）「中岡成文教授を送る会」
岡辺裕美 (P&G)
田中朋弘 (熊本大学)
西村高宏 (東北文化学園大学)
鷲田清一 (大谷大学)

第 35 回研究会（2014.9.5）「「アビリティ・スタディーズ」を開始する」
発表者
池田喬（明治大学文学部専任講師）：アビリティ・スタディーズを開始する――プロジェクトの狙い
稲原美苗（大阪大学大学院文学研究科助教）：
健常者のマトリックス ―― 認識可能なアビリティと認識不能なアビリティ
青木健太（大阪大学大学院文学研究科博士後期課程）：能力の器――リビングウィルで考える能力
川崎唯史（大阪大学大学院文学研究科博士後期課程）：体質と能力
浦野茂（三重県立看護大学教授）：
「能力がある」とはどのようなことか？―― エスノメソドロジーの視点から
飯島和樹（日本学術振興会特別研究員 (PD)　玉川大学）：能力と認知とその帰結
中岡成文（元大阪大学大学院文学研究科教授）：アビリティの関係性についての一考察
司会
浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)

第 36 回研究会（2015.2.7）
発表者
大北全俊 (東北大学大学院医学系研究科助教)：HIV 感染症と臨床哲学
辻明典 (福島県南相馬市立原町第二中学校社会科教員)：原発禍の臨床哲学
西村高宏 (東北文化学園大学保健福祉学科教授）：
瓦礫のなか、哲学のすみかはどこに？　～被災地における「哲学的対話実践」の試み～」
司会
浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授）

第 37 回研究会（2015.7.25）合評会「中岡成文『養生訓問答』（ぷねうま舎、2015）」
評者：河村厚 (関西大学法学部教授)
フランツィスカ・カッシュ (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程）
川崎唯史 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程）
個人発表者
鈴木径一郎（大阪大学大学院博士後期課程）：日々のメンテナンス――相続者として、ビギナーとして

第 38 回研究会（2015.11.21）

個人発表者

横田恵子（神戸女学院大学文学部　総合文化学科）：

日本の HIV カウンセリングが内包する権力と政治性：1990 年代の公刊論文の分析を中心に

服部佐和子（大阪大学大学院文学研究科博士後期課程、国立循環器病研究センター・医学倫理研究室 非常勤研究員）：自己生成のプロセスとしてのインフォームド・コンセントを考える

正置友子（大阪大学大学院博士後期課程）：

幼い子どもたち（0 歳～ 3 歳）にとって、絵本とはなにか―メルロ＝ポンティとともに考える―

村山晴香（大阪大学大学院文学研究科博士後期課程）：ヴィゴツキーの思想からみたアクティブラーニング

第 39 回研究会（2016.7.30）

個人発表者

高原耕平（大阪大学大学院博士後期課程）：小さなもの

大北全俊（東北大学大学院　医学系研究科）：「うっかりの倫理」試論

青木健太（大阪大学大学院博士後期課程）：話すことと聞くことによる発見

中川雅道（神戸大学附属中等教育学校）：ポスターの変化と成長の原理

《公開シンポジウム》

第 1 回 (1996.12.13)「哲学における〈現場〉」
熊野純彦 (東北大学助教授・倫理学): 死と所有をめぐって〈臨床哲学〉への途上で
古東哲明 (広島大学教授・哲学): 臨床の現場 内と外との交差点
池田清彦 (山梨大学教授・生物学): おまえのやっているのは哲学だ / おまえには哲学がない

第 2 回 (1997.2.21)「ケアの哲学的問題」
川本隆史 (東北大学教授・倫理学): 生きにくさのケア―フェミニストセラピーを手がかりに
清水哲郎 (東北大学教授・哲学): 緩和医療の現場― QOL と方針決定のプロセス
コメンテーター : 中野敏男 (東京外国語大学教授・社会学)

第 3 回 (1998.2.20)
第一部 テーマ「女性におけるセルフをめぐって」
北川東子 (東京大学): 孤立コンプレックス
吉澤夏子 (日本女子大学): 親密な関係性
コメンテーター : 藤野寛 (高崎経済大学)
コーディネーター : 霜田求 (大阪大学)
第二部 テーマ「国際結婚」
山口一郎 (東洋大学): ドイツと日本のあいだで日常としての文化差
嘉本伊都子 (国際日本文化研究センター):
国際結婚とネーション・ビルディング
コメンテーター : 浜野研三 (名古屋工業大学)
コメンテーター : 熊野純彦 (東北大学)
コーディネーター : 田中朋弘 (琉球大学)